

は昨年ハーバード大学に入りましたから、ポストンを拠点にしています。あちらでの生活も長いですから、イチローさんのすごさは日本で暮らしている人以上に感じていると思います。成績も素晴らしいんですけど、特に我々はイチローさんが日本人であることに誇りを持っているんです。世界で育っている子どもたちが彼を通して日本人であることを思い起こされてるんじゃないですか。成績の前に必ず「初」が付く。初めてやり遂げた偉業がたくさんあるってことですよ。

鈴木 イチローの中には、「初」ということはもちろん、その成績を継続しないと価値がないという思いが強いようです。

五嶋 何年連続という記録も多いです。鈴木 単発じゃ意味がないと。米国では特にそういう風潮が強いようです。

五嶋 そうですね、それはあります。鈴木 日本でやっている以上の成績を残さなかったら、海を渡った意味がないと思ってしまうので、それが自然と成績の継続につながっているような気がしますね。

五嶋 これは私の想像でしかありませんが、イチローさんは日本を背負っているんじゃないかと思ってしまう。鈴木 日本を背負っているというの

は常時思っていることではないでしょうけど、例えばWBC(ワールド・ベイスボール・クラシック)のような機会ではうんと發揮してやろうという気概はあるでしょうね。

五嶋 そういう気概をイチローさんが言葉なり態度なりでパッと出される見て親が「好きそうだな」と勝手に思っただけで(笑)。でも、イチローさんの場合、お父様とのマッチングもよかったんだらうなと思います。二人の相性がピシッといったんでしょね。

鈴木 それはあると思います。イチローは幼稚園に入る前から、一度野球遊びを始めたらかなかなかやめようとしないうと、野球が好きで子ども学校から「三年生になったら部活動が始まります」という通知書ももらってきたんです。ところが、そこに「野球」という文字がない。つまりその学校に

は野球部がなかったんです。「学校の決まりだったらみんなと一緒にやらなさいかんだら。サッカーをやるか」と聞いたら、イチローは返事をしないうと。もう一度「サッカー部に入っておくか」と聞いたら、「僕は野球がやりたい」と言う。「野球部はないのどうするんだ」と言うと、「僕は帰宅部でもいい」と。まだ小さい、小学校二年生の子どもがですよ。

五嶋 その頃からみんながやるからといって、自分が好きじゃないサッカー部に入るような子じゃなかったんですね。鈴木 そうなんです。「そんなに野球

がやりたいのなら、日曜日に活動する地域のスポーツ少年団に入るか」と聞くと、「僕は毎日野球がやりたい」と言うから、こちらも困ってしまったって、一瞬考えました。うちは愛知県の豊山というところで小さな工場を経営していました。妻や五、六人のパートさんたちも手伝ってくれていましたから、私が数時間抜けてもどうにか運営はしている。「じゃあお父さんが六年生までの四年間、毎日三時半からイチローの相手しよう。毎日だぞ。約束を守るか」と、そこでも私自身ものすごい決断をしたわけです。



五嶋 やっぱりの親の好みでしょうね。うちも私自身が若い頃ヴァイオリンをしていましたから、身近にあったことは事実です。誰でもそうだと思いますが、そばにあれば楽しそうだなと思っ



ていらっしやるんじゃないかな。もちろん四六時中思っているわけではないでしょうけど、どこかでね。親が子どもを持つとそれが捨てられないように、日本人であることも捨てられないかなと思ってしまう。

鈴木 日本を背負っているというの

は常時思っていることではないでしょうけど、例えばWBC(ワールド・ベイスボール・クラシック)のような機会ではうんと發揮してやろうという気概はあるでしょうね。

五嶋 そういう気概をイチローさんが言葉なり態度なりでパッと出される

見て親が「好きそうだな」と勝手に思っただけで(笑)。でも、イチローさんの場合、お父様とのマッチングもよかったんだらうなと思います。二人の相性がピシッといったんでしょね。

鈴木 それはあると思います。イチローは幼稚園に入る前から、一度野球遊びを始めたらかなかなかやめようとしないうと、野球が好きで子ども学校から「三年生になったら部活動が始まります」という通知書ももらってきたんです。ところが、そこに「野球」という文字がない。つまりその学校に

は野球部がなかったんです。「学校の決まりだったらみんなと一緒にやらなさいかんだら。サッカーをやるか」と聞いたら、イチローは返事をしないうと。もう一度「サッカー部に入っておくか」と聞いたら、「僕は野球がやりたい」と言う。「野球部はないのどうするんだ」と言うと、「僕は帰宅部でもいい」と。まだ小さい、小学校二年生の子どもがですよ。

五嶋 その頃からみんながやるからといって、自分が好きじゃないサッカー部に入るような子じゃなかったんですね。鈴木 そうなんです。「そんなに野球

がやりたいのなら、日曜日に活動する地域のスポーツ少年団に入るか」と聞くと、「僕は毎日野球がやりたい」と言うから、こちらも困ってしまったって、一瞬考えました。うちは愛知県の豊山というところで小さな工場を経営していました。妻や五、六人のパートさんたちも手伝ってくれていましたから、私が数時間抜けてもどうにか運営はしている。「じゃあお父さんが六年生までの四年間、毎日三時半からイチローの相手しよう。毎日だぞ。約束を守るか」と、そこでも私自身ものすごい決断をしたわけです。

鈴木宣之

ビーティー・アール社長
すずき・のぶゆき 昭和17年愛知県生まれ。東海中学、高校卒業後、芝浦工業大学を卒業。45年機械部製造業を起す。48年「男としてイチロー誕生」著書に「一番好きなこと」直線。子育ては「父親最大の仕事」(麗澤大学出版会)、「イチローと我が家の本当の話」(家の光協会)他多数。

ましたから、ある程度の年齢になるまでは「世界一だ」と位置つけてやらな

下の子は男の子ですから、「私が跪く人間になれ」と、言葉を変えました。これは「親を追い越せ」と同じ意味だと思えますが、追い越された時に親が自然と頭を下げるのかなど。そのぐら

うちは愛知県の豊山というところで小さな工場を経営していました。妻や五、六人のパートさんたちも手伝ってくれていましたから、私が数時間抜けてもどうにか運営はしている。「じゃあお父さんが六年生までの四年間、毎日三時半からイチローの相手しよう。毎日だぞ。約束を守るか」と、そこでも私自身ものすごい決断をしたわけ

五嶋節

オフィスGOTO代表取締役
ごとう・せつ 昭和24年大阪府生まれ。ヴァイオリンに興味を持ち、音楽学校に入学。オーケストラなどの音楽活動の後、お見合い結婚。46年長女みどり誕生。56年みどりと二人で渡米。再婚後、63年に長男龍誕生。現在、日本で音楽を通して心を繋げる「音楽道場」を主宰。その他、特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング副理事長、非営利団体Midori&Friends(みどり教育財団ニューヨーク)理事。著書に「天才」の育て方(講談社現代新書)などがある。